

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(中学校用)

都道府県名	群馬県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	前橋市立第三中学校					
学 年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	4	4	1	12	26
生徒数	118	131	124	2	375	

研究の概要

1. 研究主題

確かな学力を身につける学習指導の工夫・改善 - 個に応じたきめ細かな学習指導を通して -

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

少人数指導及びT・T指導 全学年 英語(国際社会におけるコミュニケーション能力を高めるため) 全学年 数学(生徒の理解度に差が出やすい教科であるため) コンピュータを活用する指導 全学年 全教科(コンピュータを有効に活用することで、意欲を高めるため)

(2) 年次ごとの計画

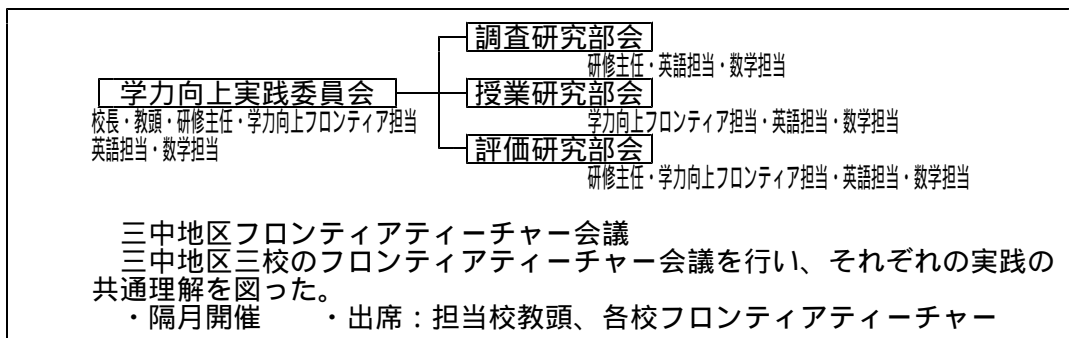
平成14年度	<p>テーマ 生徒の理解や習熟の程度に応じ、学力の評価を生かした指導方法や指導体制の工夫改善を図る。</p> <p>仮説 生徒の実態を的確に捉え、理解や習熟の程度に応じた指導方法や指導体制の工夫改善を行うことによって、生徒一人一人の確かな学力の向上が図れるであろう。</p> <p>研究内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力検査やレディネステスト、定期テスト等の分析 ・効果的な少人数指導のあり方等指導方法の工夫改善 ・評価方法の工夫改善、評価を生かした指導のあり方 ・個に応じた指導のための教材の工夫 ・個に応じた指導のための指導体制の工夫改善
--------	--

平成15年度	<p>テーマ 習熟度別少人数指導の工夫改善並びに発展的な学習や補充的な学習など個に応じた指導のための教材の開発を行う。</p> <p>仮説 習熟度別少人数指導の工夫改善、発展的な学習や補充的な学習など個に応じた指導のための教材の開発を行うことによって、生徒一人一人の確かな学力の向上が図れるであろう。</p> <p>研究内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・習熟度別少人数指導の工夫改善・補充的な学習のための教材開発 ・発展的な学習のための教材開発・開発教材の活用と工夫改善 ・評価を生かした指導の工夫改善
--------	--

平成16	<p>テーマ 生徒の学力の評価を生かした指導や個に応じた指導のための教材の活用を通して確かな学力の向上を図る。</p>
------	--

年度	<p>仮説 生徒の学力の評価を生かした指導をしたり、個に応じた指導のための教材を活用したりすることによって、生徒一人一人の確かな学力の向上が図れるであろう。</p> <p>研究内容・方法 ・評価を生かした指導の工夫改善と授業実践の充実 ・個に応じた指導のための開発教材の効果的な活用のあり方 ・生徒の実態調査と学力分析 ・習熟度別少人数指導等指導方法の成果と課題 ・研究の評価とまとめ</p>
----	--

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

<数学科>

(1) 数学への関心・意欲・態度
わからない問題をそのままにせず、質問をしたり、教え合ったりしながら考える生徒が増えた。
自分の考えたことを発言できる生徒が増えてきた。
基礎コースでは、数学に苦手意識を持っていても、あきらめずに課題を解決しようとする生徒が増えてきた。
応用コースでは、筋道立てて考えを組み立てられる生徒が増えた。

(2) 数学的な見方・考え方
自分の考えと紹介された考えを比較し、さらに考えを発展することのできる生徒が増えてきた。
一つの解法で満足せずに、さらに簡易な方法はないか、他の解法はないか考える生徒が少しずつ増えてきた。

(3) 数学的な表現・処理および数量、図形などについての知識・理解
ケアレスミスをなくそうと意識しながら、基本的な計算を解くことができる生徒が増えた。

定期テストで6割程度出題している教科書程度の問題に関して
<数学科 定期テスト(教科書程度の問題)の変容の例>

平成15年度2年生の例	2学期中間テスト	2学期期末テスト
教科書程度の問題平均点	76.8点	79.2点
教科書程度の問題全問正解者数	15.2%	18.4%
教科書程度の問題正解率6割以下生徒数	17.6%	16.0%

- ・全問正解者が増えた。
- ・つまづきを分析し、補充学習等を行った結果、つまづきの多い生徒が少しずつ減ってきた。

2学期期始めテスト(前学期の内容)に関して

	2学期期始めテスト	3学期期始めテスト
平均点	60.8点	64.0点
正解率9割以上の生徒数	18.4%	27.2%

- ・正答率9割以上の生徒が増えた。

3 学年実力テストの結果に関して（9 月・10 月・11 月実施）

数学	0～	10～	20～	30～	40～	50～	60～	70～	80～	90～	平均
第1回	3%	13%	4%	16%	18%	13%	18%	7%	5%	3%	47.4点
第2回	3%	6%	9%	4%	19%	22%	15%	11%	6%	5%	52.9点
第3回	4%	8%	5%	4%	18%	21%	12%	10%	12%	6%	54.3点

・分布が高得点域に少しずつ変化してきた。

（4）数学科の取り組み全般に関して

少人数指導にかかわるアンケートに関して（単位は％）

	思う	少し思う	あまり思わない	思わない
先生への質問がしやすい	46.5	37.6	12.7	3.27
アドバイスが多い	50.2	37.1	10.6	1.63
学習内容が理解できた	39.2	49.4	8.98	0.82
集中して取り組めた	49	43.3	6.94	0.41
クラスは自分の力に合っていた	54.3	33.5	9.8	0.41

・基礎コース、応用コースそれぞれの指導方針を立てて指導を行い、個に応じた指導に努めた結果、質問項目全てにおいて肯定的な考え（思う・少し思う）が80％以上という結果が見られた。

学力テストに関して

観点別正答率の全国比の比較（平成15年度2学年数学）

	関心・意欲・態度	数学的な考え方	表現・処理	知識・理解
平成14年度	102	102	104	101
平成15年度	105	128	119	113

5段階分布の比率の比較（平成15年度2学年数学）（単位は％）

	1	2	3	4	5
平成14年度	10	9.5	31	25.5	24
平成15年度	1.5	11	28	33	26.5

・昨年度と比較し、全ての観点で伸びが見られた。特に、数学的な考え方は、26ポイントの伸びであった。授業の中で、生徒自ら考えることのできるような課題を設定し、追求することや、自分の考えと他の考えを比較しさらに高めることなどを通して、成果があがったと思われる。
・表現処理、知識理解においては、補充学習や繰り返し学習の結果、それぞれ10ポイント以上の伸びが見られた。

各学期ごとに研究授業を行い、基礎コース・応用コースそれぞれの指導計画や資料、教具などについて考え、実践を積み重ねることができた。

< 英語科 >

（1）関心・意欲・態度

A L T や J T E との1対1の会話や生徒同士の会話を多く取り入れた結果、意欲的にコミュニケーション活動に参加しようとする生徒が増えた。コミュニケーション活動に楽しく取り組む雰囲気作りに努めたり、多くの励ましを行ったりした結果、間違いをおそれずに活動しようとする生徒が増えた。

（2）表現の能力

基本文テスト点数の変容の例

		第1回基本文テスト平均点	第2回基本文テスト平均点
2年	基礎クラス	43.83点	68.61点
	応用クラス	65.97点	93.73点
3年	基礎クラス	22.57点	44.07点
	応用クラス	54.61点	78.74点

・学習済みの単語や基本文のテストを繰り返し行い、補充学習を行ったことで、基本的な表現が身に付いてきた生徒が多く見られるようになった。

身の回りのことを表現するのに必要なことをメモする表現ノートを活用したことで、伝えたい内容によって、表現を選択し、つながりのある文章を書くことができるような生徒が増えた。

(3) 理解の能力

朝の時間を利用したリスニングテストを継続的に行った結果、聞いた内容について大切な部分を聞き取ることができるようになった生徒が増えた。

リスニングテストに関するアンケートより(単位は%)

	非常にあてはまる	あてはまる	何とも言えない	あまりあてはまらない	あてはまらない
リスニングテストは勉強になる	6	57	31	3	3
リスニングテストを通して英語を聞き取る力がついできている	7	54	30	5	4
リスニングテストの内容は聞き取ることができる	22	31	35	8	4
今後リスニングテストに集中して取り組みたい	43	38	18	1	0

- ・どの質問に対しても、肯定的な意見が5割から6割を占め、否定的な意見は、1割程度であった。朝の時間を利用し、週一度行っているリスニングテストであるが、少しずつ生徒の間に浸透し、成果をあげつつあると思われる。今後は、何とも言えないと回答した生徒を中心に、さらに充実した取り組みになるように考えながら取り組んでいきたい。

(4) 言語や文化に関する知識・理解

3学年実力テストの結果より(9月・10月・11月実施)

英語	0～	10～	20～	30～	40～	50～	60～	70～	80～	90～	平均
第1回	0%	3%	7%	13%	9%	21%	21%	15%	15%	13%	61.3点
第2回	0%	3%	7%	7%	9%	12%	18%	20%	12%	12%	63.1点
第3回	0%	2%	3%	4%	12%	14%	12%	15%	23%	16%	68.9点

- ・分布が高得点域に少しずつ変化してきた。

(5) 英語科の取り組み全般に関して

少人数指導にかかわるアンケート(単位は%)

	思う	少し思う	あまり思わない	思わない
先生への質問がしやすい	40	37	16	7
アドバイスが多い	31	43	19	7
学習内容が理解できた	32	50	15	3
集中して取り組めた	27	53	17	3
クラスは自分の力に合っていた	48	41	7	4

- ・基礎コース、応用コースともに、ヒントカードや絵カードなど活発なコミュニケーション活動を行えるよう心がけたり、表現ノートを用いて自己表現を行ったりなどの活動を行った結果、上記のような結果が得られた。

学力テスト

観点別正答率(全国比)(平成15年度3年生英語)

	関心・意欲・態度	表現	理解	言語
平成14年度	119.5	117	113.5	100
平成15年度	111.5	118	117.5	115.5

5段階分布の比率の比較(平成15年度3年生英語) (単位は%)

	1	2	3	4	5
平成14年度	6	7.5	36.5	28.5	21.5
平成15年度	0	10.5	21	39	29.5

- ・関心・意欲・態度に関して8ポイントの減少が見られたが、他の観点については、伸びが見られた。各単元における基礎・基本を明確にし、繰り返し指導や補充指導を行ったり、つまづきに依じた指導を行ったりした成果と思われる。

各学期ごとに研究授業を行い、基礎コース・応用コースそれぞれの指導計画や資料、教具などについて考え、実践を積み重ねることができた。

<学習習慣作り>

小中連携して、学習習慣に関する指導を行うことで、望ましい生徒の変容が見られ、充実した毎日が過ごせるようになる生徒が増えると考え、実践を行った。今年度は、1学期に全校に対してアンケートをとり、それらの結果をもとに、学級指導、学年集会での指導などを行った。

2. 今後の課題

習熟度別少人数指導のあり方について、さらに研究を重ねる必要がある。具体的には、今年度作成した基礎・応用それぞれの指導方針をさらに深化させることや、それぞれのコースにおける指導と評価の一体化について考察を深めることなどに取り組んでいきたい。

今年度は、少人数指導を行っている教科と、それ以外の教科（問題解決的な学習の過程にコンピュータを活用することで意欲面を高める）に分けて実践を行ったが、きめ細かな指導を通して、より確かな学力を高めるために、それぞれの教科で効果的な方策をもう一度検討してみる必要がある。

今年度、学習習慣に関する実践を行ったが、習慣作りについても生徒一人一人に対する指導を行うとさらに効果があがるであろう。

学力把握のための学校としての取組

定期的な学力調査（全学年、4月）
 実力テスト（3学年）
 期始めテスト（全学年、9月・1月）

<数学科>
 ・学力診断テスト（1・2学年、12月・2月）
 ・定期テスト（教科書程度の問題を出題）

<英語科>
 ・基本文テスト
 ・表現ノート（表現力の定着具合をみとる）

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

研究会、説明会等の開催実績及び開催予定

- ・学力向上講演会 平成16年3月1日（月）
 「確かな学力と学習力を高める」高階玲二 対象 関係教職員
- ・三中地区授業研究会 <数・英> 平成15年6月23日（月）
 <数・英> 平成15年2月18日（水）
- ・市授業公開 <コンピュータ> 平成15年11月19日（水）
- ・管内授業公開 <数・英> 平成15年12月8日（月）

HP作成等の工夫の実績及び今後の予定

- ・地区別推進協議会における実践発表の内容を中心に、本校ホームページにおいて公開（<http://www.daisan-jhs.menet.ed.jp/>）
- ・随時更新予定

フロンティアティーチャーとしての研究成果普及のための活動実績または予定

- ・三中地区フロンティアティーチャー会議への参加
- ・中部地区推進協議会での実践発表
- ・県推進協議会への参加
- ・他地区のフロンティアスクールの授業公開への参加

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 3学級以下 4～6学級
 7～9学級 10～12学級
 13～15学級 16学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 その他
- 【研究教科】 国語 社会 数学 理科
 外国語 音楽 美術 技術・家庭
 保健体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無